

改善意見（日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科）

I 理念・目的

世界はあらゆる分野において、国際化と情報化を基盤にグローバリゼーションが急速に、しかも確実に進行している環境変化に対応するために、地球規模で物事を考えることが求められている。本研究科としても、社会の一員としてグローバリゼーションへの取り組みをすべきであるとの理念の元、創造的かつ想像力豊かな人材をいかに多く育てられるかが、21世紀の国家の繁栄を決定する重要な鍵と考え、物質的資本よりも「人的資本」を重視する教育を理念として掲げている。

本研究科として、地球規模で流動化するこれからのビジネスを担う人材の輩出という時代の要請に応え、1998年にわが国では極めて斬新な日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科（Nihon University Graduate School of Business:NBS）を創設した。

本研究科は学際的でグローバルな問題解決力を持ち、高い専門性、主体性、創造性、さらに幅広い見識を備えた人材の育成を目的としている。そのためには、競争原理に基づき、21世紀の国際社会を舞台に活躍できる真の実力を持った、インテリジェンスを身に付けた人材の育成こそが教育目標である。

II 教育研究組織

本研究科は、大学院担当を本務とする専任教員を中心として組織する独立研究科である。

教育については、学生の入学時の4月または9月にそれぞれ科目履修ガイダンスを実施する。その場合、学生と十分協議のうえ、特別研究を担当する教員の中から本人の希望条件にもっとも近い研究指導教員を選び、研究主題とともに科目履修登録させる。指導教員は2年間修士論文の指導をする。そして、最終試験は修士論文を指導した教員が主査となり、論文に関連する学問領域を専攻する教員2名が副査となり審査、口述試問に当たる。

次に、本研究科の教員は、学部の授業担当はないが、昼夜開講制を採用しているため、特別研究を担当する教員の勤務時間及び勤務日数は多くなっている。また、専任教員は日曜及び夏季・冬季休暇中も出校し、自らの研究活動に従事するとともに、学生の研究指導にも当たっている。